

ケンタロ・オノさん（キリバス）

あこがれの国が故郷に

僕は仙台で生まれ、15歳まで仙台で育ちました。小さい頃から外国、特に南の島に興味があり、小学生の時にテレビでキリバスが紹介されていたのがきっかけで、キリバスが“あこがれの国”になりました。高校1年生の時、どうしても留学に行きたいと思い、キリバスの首都タラワにある高校に編入しました。23歳の時にキリバス国籍を取得し、日本人で初めてキリバス国民となりました。会社を立ち上げて、さまざまな仕事をしました。この美しい島々を故郷と呼べるのはなんて幸運なのでしょう。



海とともに生きる国・キリバス

キリバスは、1979年にイギリスから独立した中央太平洋にある国です。第二次世界大戦中に、日本軍による占領を経験し、日米両軍の激しい戦いが交わされた国でもあります。人口は大体11万人。中央太平洋の東西5000kmに33の島が散らばっています。キリバスの陸地面積は811km²ですが、排他的経済水域*は355万km²もあります。キリバスは、海と一緒に生きていて、海に活かされています。

故郷を離れるという選択を迫られる危機

でも2000年あたりから、温暖化と気候変動の影響を受けるようになりました。海面上昇で土地が削られ、海岸のヤシの木が倒れる光景が当たり前になりました。島々の海拔**は、平均1.5~2mしかありません。首都タラワは東西約40kmありますが、幅は350mしかありません。細長い島なので、ちょっとした天候や海の変化にもものすごく脆弱なのです。以前は1年の間の雨季と乾季がはっきりと分かれていましたが、最近は雨がものすごく降る年と降らない年になってきました。今まで経験したことがない嵐もたくさん来ます。海岸線から離れようと走ると、今度は反対側の海岸線に着いてしまうので、逃げるところがない。とにかく怖いのです。

世界銀行の最悪のシナリオによると、2050年に首都タラワの8割が海に沈むと言われ

ています。タラワにはキリバスの人口の半分以上が暮らしています。既に海水が入ってきたため移住が強いられた村もあるのです。

地球温暖化は人災です

ちょっと普段の生活をふりかえってほしい。私たちの食卓にのぼる食べ物は、地球の裏側から毎日たくさんの二酸化炭素を吐き出しながら運ばれてきます。地元の食材より輸入した食べ物のほうが安い。これっておかしくないですか？深夜にコンビニで食べ物や雑誌を買う必要ありますか？

これだけ地球温暖化が言われているのに、電気をつくるために日本はいまだに石炭をつかっている。ぜひ考えて行動に移してほしいのです。なぜならこの問題は、政治でも科学の問題でもなく、人間の問題なのです。この問題は私たち人間が引き起こしたので、人間が解決するしかないのです。地球温暖化は人災です。人災なので、逆に言うとも防ぐこともできるのです。

* 排他的経済水域…沿岸国が水産資源や海底鉱物資源などについて主権的な権利や管轄権をもつ水域。

** 海拔…海水面から測った陸地の高さ。

出典：BE*hive 展示「女性と社会的弱者にとっての気候変動」ZONE D パネル①～④より

Kentaro Ono "My Blueprint Living as a I-Kiribati" <https://www.youtube.com/watch?v=EGaEK0zvgi0>

スミタさん（ネパール）

農作物の収穫が激減、移住する人も

私はネパールのヒマラヤ山脈のふもとの農村で暮らしています。夫と2人の子どもと4人暮らしで、農業で生計を立てています。私の住む村では、村人はみんな畑を持ち、米や小麦、とうもろこし、ジャガイモなどを作って生活しています。牛や山羊なども飼っています。

しかし、ここ数年、私たち農家は気候変動によって大きな影響を受けています。予測不能な霧や嵐が発生し、農作物が被害を受けて、収穫が激減したのです。村人の中には貧困に陥り、村での生活をあきらめ、違う土地へ移住する人も続出しています。



農作業も家事も…すべての負担がスミタさんに

私の家の畑も農作物の収穫量が大幅に減少しました。私の夫は収入を補うために数年前から海外に出稼ぎに出ています。そのため、これまで夫が担っていた農作業の仕事を、代わりに私がやることになりました。農作業の中には力仕事や初めてやることも多く、とても大変です。

それに加えて、料理や洗濯などの家事をこなし、子どもや義理の親の世話も全て一人でしなければならなくなりました。生活が楽になるようにと夫は出稼ぎの道を選びましたが、数年たった今も私たちの生活は苦しいままです。

毎日を必死に生き延びている

いま直面している一番の困難は、水不足です。冬期が以前よりも乾燥し、雨期が以前と比べると遅れて始まるようになりました。水源は家から遠いところにあり、生活用水と農業用水の確保がとても大変です。

水を確保できないと、農作物を育てることができず、家族が食べる食事を満足に用意できないこともあります。生きるために食べ物をみんなで分け合い、食料がすぐに底をつかないよう少しずつ食べるようにしています。そうやって毎日を必死に生き延びているんです。

娘たちは学校に通わせていますが、農作業や水の運搬が大変なときは、学校を休んで手伝ってもらうこともあります。でも、私は初等教育までしか受けたことがなく、娘たちにはできればもっといろいろな勉強をしてほしいと願っています。

明らかに、私たちの暮らす村の気候は変化しています。今までの方法で農作業や暮らしを続けていてはダメなのです。でも私たちに何ができるというのでしょうか。

出典：BE*hive 展示「女性と社会的弱者にとっての気候変動」ZONE D パネル①～④より

※本エピソードは、ネパールに住む地域住民のエピソードをもとに作成しました。名前・イラストは、架空のものです。

ホッキョクグマ（北極圏）

ぼくらの暮らし

ぼくは、地上最大の肉食獣・ホッキョクグマ。北極圏の海に住んでいて、26,000頭くらいの仲間がいるよ。

ぼくらは、生涯のほとんどを氷が張っている海の上で過ごすんだ。氷が張っている11月から7月ごろまでは狩りをして、厚い皮下脂肪を蓄えて厳しい寒さを

乗り切るんだ。大好物は、なんといってもアザラシ！海氷の上にいるアザラシの群れを見つけたら、そっと海に潜って、氷の端から相手を仕留めるのが得意なんだ。ほかにもセイウチやシロイルカ、水鳥やその卵なんかを食べることもあるよ。

暖かくなって氷が解け始めると、再び海が凍るまで陸で暮らすんだ。でもその間は狩りができないから絶食状態。この時期が一番つらいね。この3~4か月間は、体に蓄えた脂肪分を少しずつ消費していくから、できるだけ春の間にたくさん狩りをするのが大事なんだよ。

本当はおなかいっぱい食べたいのに…

でもね、ここ数年は氷が解けるのが早くなってきてるんだ。狩りをできる期間がだんだんと短くなって、陸で暮らす期間が長くなっている。再び海が凍るまで体力が持たなくて、死んでいく仲間が年々増えている。

これまでぼくらは陸上にいる間は絶食してきたけど、耐えきれなくて陸上で食べ物を探すことも多くなったよ。カナダには毎年繁殖のためにハクガン（渡り鳥）がやってくるんだけど、ハクガンの卵はぼくらの非常食。これを見つられたときはラッキーだね。あとは、これまで食料を保存することなんてなかったけど、食べ残しを雪に埋めて、どうしても食料が見つからない時のために取っておくんだ。本当はおなかいっぱい食べたいけどね。

食料を求めて長距離を移動する仲間もいるよ。ぼくはこれまで人間に会った



ことはほとんど無いけど、ほかの仲間は人間が暮らす村まで獲物を探しに行っただって。

ねえ教えて、どうしたらもとの暮らしに戻れる？

いまは試練の時。ぼくらは人間みたいに簡単に移住できないから、なんとか北極圏で暮らせるよう、知恵を絞って食糧不足を乗り切るんだ。でも、北極圏の氷の面積は年々減少する一方で、ぼくたちホッキョクグマだけではなく、アザラシや他の生き物も影響を受けていて、その数がどんどん減少しているんだ。

人間はぼくらを「絶滅危惧種」って呼んでいて、絶滅する可能性があるって言う研究者もいるんだって。ねえ、どうしたらぼくらは生き延びることができる？ どうしたらもとの暮らしに戻れる？

出典：BE*hive 展示「女性と社会的弱者にとっての気候変動」ZONE A パネル①②より

「ホッキョクグマ、温暖化を生き抜く4つの適応策」<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/15/a/090800033/>

